

「部活動の課題と地域移行について」～生徒にとって望ましい持続可能な部活動を実現するために～

公立中学校の休日の部活動の段階的な地域移行が始まりました。休日の部活動を地域移行する背景には、学校の教育現場で部活動に取り組む「生徒」と、それをささえる「教員」や「学校」が抱えるさまざまな課題があります。部活動の地域移行は、現在の部活動を単に地域に出すということではなく、各地域の実情やニーズに合わせて、子供たちにとってさらに充実した環境を整備するものであり、学校や地域、スポーツ界など各方面の関係者が一緒に行う取り組みといえます。

スポーツ庁から「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】」が令和4年12月に示されました。学校部活動は中学生を主な対象者とし、高校生も原則適用。学校部活動の地域連携・地域クラブ活動へに移行に向けた環境整備や大会等の在り方の見直し等は、高校は実情に応じて取り組むことが望ましいとされています。

「山形県における部活動改革のガイドライン」が令和5年3月に示されました。山形県の担当者より「山形県における部活動改革に係る基本的な考え方」や「部活動改革に向けた学校の体制整備」などをお聞きし意見交換等を行うことで、生徒にとって望ましい持続可能な部活動を実現するために実施したものです。

【話題提供】 県教育委員会教育局スポーツ保健課長 村上 周市 氏

1. 部活動の課題と地域移行
 2. 山形県における部活動改革に係る基本的な考え方
 3. 部活動改革に向けた学校の体制や新たな地域クラブ活動の環境整備等
-

以上の話題提供を受け、①各校・各地区の部活動の課題と地域移行について、②「部活動の地域移行について」の保護者としてできることは、③地域の持続可能で多様な一体的に整備するには、この3つの視点からグループ別に意見交換が行われました。

（3つの視点についてグループでの意見から一部を掲載）

- ① 部活動の任意加入や少子化により、団体競技は部員数が減少し合同チームでの活動となってきている。合同チームすら作れない競技や地域においては、本来望んでいない個人競技に在籍したり部活動未加入となっている。また、そのために人間関係が狭くなりいじめへ発展するのではという不安と、時間を持て余してゲームばかりすることへの不安が募っている。専門の指導者がなかなかいない。また、文化部の地域移行が進んでいない気がする。
- ② 任意加入や地域移行となることで、送迎や費用等の保護者の負担が生じてしまう。そこに不安や不満を持ってしまいがちだが、時代の変化ということで、保護者自身の意識改革が必要となってくるのではないかと。
- ③ 子供たちにきちんとした情報を与える場を作り、継承者を育成し、地域・自治体・学校・保護者が協力し合って地域全体のスポーツ・文化活動を進めていくことが必要ではないかと。

<講評と総括>

生の声の意見交流がいかにか大事かと感じた懇談会だった。当事者意識を持った保護者が学校と地域と共有し、子供も交えて「考え始める」「話し合いを始める」「継続していく」ことが大事である。まさに昨年度の合同懇談会のテーマでもあった「コミュニティ・スクール」「地域学校協働活動」の一体的な実施が大切になってくる。

<まとめ>

部活動の地域移行にあたって「子供たちのために何ができるか」を考え、それぞれの立場の方々と協力して進めていくことが大切です。そのためにも説明会や意見交換会等を広く継続して行うことが必要であると感じました。熱心に話し合いをしていただいた参加者の皆様、本当にありがとうございました。

